

兵庫県立視覚特別支援学校

令和2年度学校関係者評価

「よりよい学校づくり」のために、学校評価結果をふまえて自己評価に向けた今後の重点取組8項目について、学校関係者に評価をお願いしました。

- 1 評価票（評価 5：とてもよい 4：よい 3：まあまあ 2：あまりよくない
1：よくない）

	評価項目	R2	R1	H30
①	当校は、 <u>教育方針</u> をわかりやすく伝えている。	4.8	4.3	4.8
②	当校は清掃が行き届き、 <u>学習環境</u> の面で満足できるものになっている。	4.3	4.2	3.0
③	当校は、子どもたち一人一人の <u>特性に応じた教育活動</u> に取り組んでいる。	4.5	4.5	4.3
④	当校の雰囲気はよく、 <u>子どもたちが生き生き</u> としている。	4.8	4.7	4.8
⑤	当校は、 <u>地域や保護者との関わり</u> を大切にし、情報の提供や施設の開放など開かれた学校づくりに努めている。	4.3	4.8	4.5
⑥	子どもたちに対する <u>教員のことばがけや態度や姿勢</u> がよく教育への情熱が伝わってくる。	4.8	4.5	3.5
⑦	子どもたちに <u>命を大切にする心や社会のルールを守る</u> 態度を育てようと職員が積極的に関わり指導している。	4.0	4.3	3.8
⑧	職員は子どもたちの相談にのり、将来の自立に向けて <u>きめ細かな指導</u> を行っている。	4.0	4.2	3.3

黄色は3年間で一番良い

緑色は3年間で一番悪い

2 本校の自己評価に向けた重点取組「①～⑧、⑨その他」について、記述によりご意見をお願いしました。

①	「広報・啓発」について	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度はブログの更新を頻繁に行い情報提供に役立っていた。令和3年度は<u>活動が例え少なくとも広報・啓発ができる方法</u>を探ってはどうか。
②	「校内美化」について	<ul style="list-style-type: none"> どの場所へ行っても、<u>綺麗に清掃されていた</u>。子ども達にとって安全であると認識できる環境だった。 学習環境の課題を認識し、改善に努めている。
③	「教育活動」について	<ul style="list-style-type: none"> 個々の<u>視覚障害の度合いに合わせた対応</u>ができている。 一人一人に必要な言葉かけをされていた。<u>子ども達が率先して授業に取り組む姿勢</u>が素晴らしかった。 「<u>オンラインでできることは、ぜひオンラインで!</u>」今後、社会はオンライン化されていくことを考えると、「<u>盲学校から発信していく</u>」こともポイントとなりそう。(もちろん、視覚障害教育は体験重視の五感を使った学びが大切であることを踏まえて…) 保護者アンケートの「<u>個別の指導計画が分かりやすい</u>」の項目で高い評価を得ているところが素晴らしい。
④	「学校の安全・安心」について	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の皆様の普段からの取組が子ども達に伝わっていることが、子ども達の表情から伝わってきた。<u>安心して過ごすことができる</u>。

⑤	「地域・保護者との連携」について	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>緊急メール等を活用して、連携ができています。</u>
⑥	「接遇」について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 声のトーンで子ども達への状況を伝えているため、子ども達の中で<u>「けじめ」をつけることができています。</u>
⑥	「命を大切に、社会ルールを守る心を育てること」について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内での環境と校外の社会環境の違いについて、また人と接する時など、<u>様々な困難に立ち向かえることができるよう指導されている。</u>
⑧	「子どもたちの将来」について	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>進学や就職について、もう少し情報があれば良い。</u> ・ 学校が子ども達の「<u>夢を実現できる</u>」環境を作ることができている。 ・ <u>理療科の教員・生徒と他学部教員・児童生徒保護者の交流など積極的に行えると良さそう。</u>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad やその他の機材の使用方法で、「3Dプリンター」をもっと有効活用することで、子ども達に形を伝えていくのが良いのではないかと。 ・ コロナの影響が大きく、誰もが学校評価をするのは難しかったと思う。今後はやはり、オンラインでできることを積極的に進めていく必要がある。オンラインでの体験も貴重な体験であるにとらえ、交流教育や教員の研修からでも実現してほしい。 	